

ごみ組成分析結果について
(各クリーンセンターのごみ組成分析(乾ベース)結果)

上田クリーンセンター(年6回分析値の平均)

	三成分(%)			物理組成(%)						
	水分	総固形分		紙・布類	木・竹類	合成樹脂・ゴム・皮革類 ^{注2)}	厨芥類	不燃物類	その他	
		可燃分	灰分							
21年度	31.0	61.3	7.7	55.1	16.0	4.1	20.3	3.4	1.2	
22年度	21.9	69.6	8.5	56.0	23.6	6.8	9.3	3.3	1.1	
23年度	25.4	66.7	7.9	53.7	23.4	5.0	13.5	3.0	1.5	
24年度	28.4	63.1	8.5	53.7	19.1	4.0	20.0	2.6	0.7	
25年度	44.8	49.0	6.2	56.9	15.6	4.8	20.0	2.3	0.5	
26年度	42.0	50.7	7.3	55.4	15.4	4.6	22.1	2.5	0.2	
27年度	41.7	51.9	6.4	56.9	10.7	5.1	24.7	2.5	0.1	
28年度	65.3	31.2	3.5	44.1	10.7	4.5	33.9	1.2	5.7	
29年度	67.5	29.0	3.6	30.6	13.8	6.0	42.8	0.7	6.0	
30年度	47.2	47.2	5.6	56.3	7.7	19.6	12.6	0.4	3.4	
元年度 ^{注1)}	53.2	42.9	3.9	64.7	10.1	6.3	12.9	0.4	5.6	
平均	42.6	51.1	6.3	53.0	15.1	6.4	21.1	2.0	2.4	

注1)「元年度」の測定値は、4月、6月、8月に実施した分析の平均値。
 注2)ごみ処理広域化計画では「合成樹脂・ゴム・皮革類」を「プラスチック類」としている。
 注3)三成分、物理組成の割合は、四捨五入しているため、その合計が100%とならない場合がある。
 注4)上田クリーンセンターの焼却割合 75.6%(平成30年度実績)
 (上田広域全体の焼却ごみに対して上田クリーンセンターで焼却した割合)

丸子クリーンセンター(年4回分析値の平均)

	三成分(%)			物理組成(%)						
	水分	総固形分		紙・布類	木・竹類	合成樹脂・ゴム・皮革類 ^{注2)}	厨芥類	不燃物類	その他	
		可燃分	灰分							
21年度	52.0	41.9	6.1	57.1	9.9	10.8	17.3	2.0	3.0	
22年度	51.3	43.5	5.2	64.5	5.7	11.9	14.0	3.1	0.9	
23年度	53.6	41.2	5.3	60.7	9.8	12.9	15.1	1.7	0.0	
24年度	46.3	46.7	7.0	59.7	2.8	10.0	20.0	5.7	1.8	
25年度	45.6	47.4	7.1	71.5	3.3	10.1	9.3	0.7	5.2	
26年度	35.9	52.0	12.1	55.5	11.2	7.1	18.6	3.8	3.9	
27年度	35.9	56.9	7.2	41.2	6.0	12.1	37.4	1.7	1.7	
28年度	50.3	44.6	5.1	55.4	1.0	27.1	14.3	1.1	1.1	
29年度	39.1	54.9	6.0	63.6	4.2	5.5	24.5	0.8	1.5	
30年度	38.6	54.5	6.9	64.0	6.7	14.0	13.1	1.9	0.4	
元年度 ^{注1)}	39.3	51.0	9.7	55.9	21.9	14.2	3.5	3.4	1.1	
平均	44.4	48.6	7.1	59.0	7.5	12.3	17.0	2.3	1.9	

注1)「元年度」の測定値は、6月に実施した分析値。
 注2)ごみ処理広域化計画では「合成樹脂・ゴム・皮革類」を「プラスチック類」としている。
 注3)三成分、物理組成の割合は、四捨五入しているため、その合計が100%とならない場合がある。
 注4)丸子クリーンセンターの焼却割合 16.2%(平成30年度実績)
 (上田広域全体の焼却ごみに対して丸子クリーンセンターで焼却した割合)

東部クリーンセンター(年4回分析値の平均)

	三成分(%)			物理組成(%)						
	水分	総固形分		紙・布類	木・竹類	合成樹脂・ゴム・皮革類 ^{注2)}	厨芥類	不燃物類	その他	
		可燃分	灰分							
21年度	49.1	45.5	5.5	57.8	1.1	3.4	29.2	8.7	0.0	
22年度	46.8	47.9	5.3	64.5	5.1	4.7	24.6	1.2	0.0	
23年度	47.0	49.0	4.0	70.1	3.9	2.9	21.3	1.9	0.0	
24年度	44.8	50.4	4.8	68.2	1.2	3.5	23.7	3.4	0.0	
25年度	47.5	48.5	4.1	54.6	2.2	3.9	31.5	7.9	0.0	
26年度	44.1	51.0	4.9	68.0	1.0	3.1	27.3	0.8	0.0	
27年度	51.1	44.4	4.5	50.3	2.5	4.4	39.3	3.6	0.0	
28年度	47.6	45.8	6.6	70.2	1.6	4.5	22.2	1.6	0.0	
29年度	50.6	45.6	3.9	63.1	3.7	6.9	24.5	2.0	0.0	
30年度	42.1	52.3	5.6	79.8	2.1	3.4	13.4	1.4	0.0	
元年度 ^{注1)}	26.7	64.3	9.0	67.3	1.7	18.5	4.4	8.1	0.0	
平均	45.2	49.5	5.3	64.9	2.4	5.3	23.8	3.7	0.0	

注1)「元年度」の測定値は、4月に実施した分析値。
 注2)ごみ処理広域化計画では「合成樹脂・ゴム・皮革類」を「プラスチック類」としている。
 注3)三成分、物理組成の割合は、四捨五入しているため、その合計が100%とならない場合がある。
 注4)東部クリーンセンターの焼却割合 8.2%(平成30年度実績)
 (上田広域全体の焼却ごみに対して東部クリーンセンターで焼却した割合)

・上田クリーンセンターのごみ組成分析調査における試料採取は、市の職員が環境省通知に基づくマニュアルにより実施しており、職員へのヒアリング調査や本年度の現場立会いでも確認している。
 ・しかし、実際の分析結果では年6回調査した平均値において、年度間の数値にバラつきが大きい状況であり、これは職員の試料採取作業の手法が年度ごとに異なることが原因と考えられる。
 ・現在でも、人事異動においては、マニュアルに基づく引継ぎが行われているが、試料採取作業については、職員個々の作業手法が介入する余地が大きく、実際の作業の標準化が不十分であったと推測されることから、改善が必要である。

今後の改善策

①今年度の調査

・試料採取する作業を動画などで詳細に記録し、手法の標準化を図る。

②来年度以降の調査

・今後の施設設計等でも参考とする数値であり正確性を期するため、試料採取の段階から専門機関へ委託し、行政職員立会いのもと試料採取を実施する。

・今年度の記録をもとに、これまでの採取手法の検証を行う。